

【総合指標】

総合指標(案)	指標設定の考え方	目標値設定の考え方	算定方法	現状値 (令和4年)	目標値 (令和12年)
住宅が安心・安全で快適であると思う市民の割合	良好な住環境には、住宅が安心・安全・快適であることが重要。総合計画における住宅部門の成果指標を、住生活基本計画の総合指標として設定。	否定的な回答(「あなたは、お住まいの住宅について、安心・安全・快適であると思いますか。」という設問に対して、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答したもの)の要因を分析すると、半数がバリアフリーや温熱環境、耐震性、管理や修繕費用に不満や不安を感じている。これらに対して重点的な施策を行うことで、「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の半数を「そう思う」「どちらかといえばそう思う」に引き上げることを目指す。	「あなたは、お住まいの住宅について、安心・安全・快適であると思いますか。」という設問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人数 / 全回答者数 × 100 (%)  データ： 新潟市総合計画成果指標に関するアンケート調査	75.2%	82.1%

【基本目標①】誰もが安心して暮らすことができる多様な住まいの実現

基本方針	指標	指標設定の考え方	目標値設定の考え方	算定方法	現状値 (平成30年)	目標値 (令和12年)	新潟市推移		参考
							平成25年	平成30年	
①-1 子育て世帯・若年世帯が安心して暮らせる住まいづくり	子育て世帯における誘導居住面積水準の達成率	継続	子育て世帯の多様なライフスタイルに対応したゆとりある住宅確保の状況を表す指標として設定	現状値は全国平均より高く、政令市第1位。全国計画(平成28年策定)の令和7年の目標値50%も上回っている。現状値より「増加させる」ことを目標値に設定する。  データ：住宅・土地統計調査	51%	増加させる	50%	51%	【全国】 42.8% (H25) → 43.6% (H30) 0.8%増加 【新潟県】 56.6% (H25) → 55.2% (H30) 1.4%減少 【新潟市】 50.2% (H25) → 50.9% (H30) 0.7%増加
①-2 高齢者等が安心して暮らせる住まいづくり	高齢者が居住する住宅の一定のバリアフリー化率	継続	高齢者が居住する住宅の日常生活(主に移動)における安全性確保の状況を表す指標として設定	直近10年間の傾向からの予測に、バリアフリーリフォーム補助による効果を加味して、55%を目標値に設定する。  データ：住宅・土地統計調査	43%	55%	43%	43%	【全国】 41.2% (H25) → 42.4% (H30) 1.2%増加 【新潟県】 46.0% (H25) → 46.8% (H30) 0.8%増加 【新潟市】 42.6% (H25) → 42.5% (H30) 0.1%減少
①-3 多様なセーフティネット機能の充実	最低居住面積水準未達率	継続	住宅に困窮する世帯など、必要不可欠な面積水準未達の住宅に住む世帯の状況を表す指標として設定	健康で文化的な生活のために必要不可欠な住宅の面積に関する水準であることから、「早期解消」を目標値に設定する。  データ：住宅・土地統計調査	4.6%	早期解消	4.5%	4.6%	【全国】 7.1% (H25) → 6.6% (H30) 0.5%減少 【新潟県】 3.2% (H25) → 3.5% (H30) 0.3%増加 【新潟市】 4.5% (H25) → 4.6% (H30) 0.1%増加

【基本目標②】次世代に受け継がれる良質な住宅ストックの形成

基本方針	指標（案）		指標設定の考え方	目標値設定の考え方	算定方法	現状値 （平成30年）	目標値 （令和12年）	新潟市推移		参考
								平成25年	平成30年	
②-1 住宅の適正な維持管理等の促進	腐朽破損がある持ち家の割合	新規	住宅の適正な維持管理の状況を表す指標として設定	現状値は全国平均値より高く、政令市第1位。まずは、全国平均を下回ることを目指し、5.0%を目標値に設定する。	持ち家のうち、腐朽・破損がある（主要な構想部分《壁・柱・床・梁・屋根等》やその他の部分に不具合があるもの）住宅数 ／持ち家の住宅総数×100（%）  データ：住宅・土地統計調査	8.6%	5.0%	9.5%	8.6%	【全国】 6.9%（H25）→5.2%（H30） 1.7%減少 【新潟県】 8.5%（H25）→7.3%（H30） 1.2%減少 【新潟市】 9.5%（H25）→8.6%（H30） 0.9%減少
②-2 住宅ストックの質の向上	住宅の耐震化率 省エネルギー対策率	継続	地震に対する住宅の安全性確保の状況や、省エネルギー対策が行われた住宅の普及状況を表す指標として設定	将来的に耐震性が不足する住宅を概ね解消するため、94%を中間的な目標値に設定する（新潟市建築物耐震改修促進計画：令和4～7年度）。	耐震性能を有する住宅数 ／住宅総数×100（%）  データ：新潟市耐震改修促進計画	88% （令和2年）	94% （令和7年）	79%	88% （令和2年）	【全国】 82%（H25）→89%（R2） 7%増加 【新潟県】 80%（H25）→85%（R2） 5%増加 【新潟市】 79%（H25）→88%（R2） 9%増加
				直近10年間の傾向からの予測に、温熱環境改善リフォーム補助による効果を加味して、61%を目標値に設定する。	一定の省エネルギー対策*が行われた住宅数 ／住宅総数×100（%） *全部又は一部の窓に二重サッシ又は複層ガラスを使用  データ：住宅・土地統計調査	48%	61%	44.3%	47.6%	【全国】 25.2%（H25）→29.0%（H30） 3.8%増加 【新潟県】 47.9%（H25）→50.6%（H30） 2.7%増加 【新潟市】 44.3%（H25）→47.6%（H30） 3.3%増加
②-3 既存住宅の流通市場の活性化	持ち家のうち既存住宅を取得した割合（累計）	新規	既存住宅の流通状況を表す指標として設定	現状値は全国平均値より低く、政令市18/20位。まずは、全国平均を上回ることを目指し、15%を目標値に設定する。	持ち家として取得した既存住宅数 ／持ち家の住宅総数×100（%）  データ：住宅・土地統計調査	11%	15%	9.7%	10.9%	【全国】 13.7%（H25）→14.7%（H30） 1.0%増加 【新潟県】 7.7%（H25）→9.0%（H30） 1.3%増加 【新潟市】 9.7%（H25）→10.9%（H30） 1.2%増加

【基本目標③】安心・安全・快適で地域の特性を活かした住環境の形成

基本方針	指標（案）		指標設定の考え方	目標値設定の考え方	算定方法	現状値 （平成30年）	目標値 （令和12年）	新潟市推移		参考
								平成25年	平成30年	
③-1 安心・安全で快適な住環境の形成	居住環境に対する満足度	新規	防災や防犯対策等による安心・安全な住環境の形成や、地域の特徴・個性を活かした快適な住環境の形成などの状況を表す指標として設定	意向満足度調査の結果を用いるため、現状値より「増加させる」ことを目標値に設定する。	「居住環境の満足度」において、「満足」又は「まあ満足」と回答した人数 ／回答者数×100（%）  データ：住生活総合調査	72%	増加させる	70.8%	71.6%	【全国】 72.0%（H25）→71.5%（H30） 0.5%減少 【新潟市】 70.8%（H25）→71.6%（H30） 0.8%増加
③-2 多様な主体が関わるまちづくり	近隣の人やコミュニティとの関わりに対する満足度	新規	多様な主体が関わる地域の活動等の状況を表す指標として設定	意向満足度調査の結果を用いるため、現状値より「増加させる」ことを目標値に設定する。	「近隣の人やコミュニティとの関わりに対する満足度」において、「満足」又は「まあ満足」と回答した人数 ／全回答者数×100（%）  データ：住生活総合調査	77%	増加させる	71.7%	76.6%	【全国】 72.1%（H25）→74.4%（H30） 2.3%増加 【新潟市】 71.7%（H25）→76.6%（H30） 4.9%増加